

## 要 旨

本研究は、他者との考えを比較検討させる交流活動を通して、社会的な思考・判断力を高めることを目指したものである。思考の仕方を学ぶ場と、他者と共に思考する複数回の交流活動の場を取り入れた学習指導方法の研究を行った。その結果、児童は根拠に基づいた考えをもつことができるようになった。さらに、その思考内容について吟味・検討、修正を行いながら幾つもの社会的事象を互いに関係付け、多面的に捉えて思考・判断することができるようになった。

キーワード      イメージマップ      発表整理カード      討論活動

### 1 研究の目標

社会的な事象を自己とのかかわりの中で捉え、他者との考えを比較検討させる交流活動を通して、社会的な思考・判断力を育成する社会科学習指導の在り方を探る。

### 2 目標設定の理由

今日、子どもたちを取り巻く社会は複雑化し、価値観の多様化が進むとともに様々な社会的問題を抱えている。社会科教育では、学習指導要領における社会科の目標に「公民的資質の基礎を養う」とあるように、社会の一員としてよりよい社会を考え、社会生活の様々な場面で多面的に考え、判断する態度や能力が養われることが求められている。

しかし、平成17年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果から、小学校社会科での「社会的な思考・判断」や「社会的な事象についての知識・理解」の通過率の低さが明らかとなった。本校児童の実態をみても、社会的な事象について言葉として表面的に捉えることはできているものの、自分の生活と深くかかわりのある、意味のあるものとして捉えることができている児童は少ない。また、社会的な事象について思考・判断する経験も乏しく、社会的な事象を比較したり関連付けたりするなど多面的に捉え考察し、思考を深める力が十分に身に付いているとは言えない。

このようなことから、社会的な事象を自己とのかかわりの中で捉え、それらの意味や働きを他者と共に考えることを通して、社会的な事象を多面的に捉えることができるようにする学習指導方法の工夫、改善が必要であると考えた。

そこで、本研究では、グループ研究の方向性を受け、児童の社会的な思考を高める学習指導の在り方に焦点を当てた本目標を設定することとした。

### 3 研究の仮説

社会的な事象について、自分の考えを吟味・検討、修正させる交流の場を複数回設定し、思考の仕方を学びながら、事象の意味を正しく理解させれば、社会的な思考・判断力を育成することができるであろう。

### 4 研究の内容と方法

- (1) 社会的な思考・判断力を高める指導について、文献や資料に基づいた理論研究を行う。
- (2) 社会的な思考・判断力についての実態調査を行い、その結果を分析する。
- (3) 思考の仕方を学ぶ場、意見交流の場を取り入れた授業実践を行い、社会的な思考・判断力の高まりを分析・考察する。

## 5 研究の実際

### (1) 社会的な思考力について

辰野千壽は、「思考力について、観察や記憶によって頭の中に蓄えられた内容をいろいろに関係づけ、新しい関係を作り出すことであり、『考える力』といえは、『関係をつける力』である」<sup>(1)</sup>と述べている。社会科においては、社会的な思考・判断力がこれに当たる。また、北俊夫らは「社会的な事象について問題意識をもち、学習の見通しをもって追究すること、そして、その過程で社会的な事象の特色や相互の関連、意味や働きなどについて考え、適切に判断する力」<sup>(2)</sup>と述べている。そこで、本研究における社会的な思考力を、社会的な事象を捉えるとき、複数の事象を関連付けて考え、事実をつないでそこに存在する因果関係や利害関係などの関係性に気付く力とした。

社会的な事象について考えをもてない児童には、事象を図形化して示したり、思考の仕方の定形を示したりして、学習の中で自分の考えをどのように作り、どのように高めていくのかを学ばせることが必要である。また、社会的な思考力を高めるためには、学習過程の中に他者と共に思考する交流活動を複数回取り入れ、交流活動で得た情報も含めて社会的な事象について関係付ける力を育成していくことが必要である。

### (2) 社会的な思考・判断力を高めるための手立て

社会的な思考・判断力を高めるため、図1のような思考の仕方を学ぶ場や、自分の思考内容について吟味・検討、修正させる交流の場を設定し、段階的な指導過程をとることにした。

#### ア 思考の仕方の学び取り

社会的な事象について、視点を明確にして、具体的な事実から自分の考えを作るという思考の仕方の学び取りを検証した。社会科における関係を付ける力を身に付けさせるために、最初の考えをもたせる段階で、経済性、環境性などの視点の確認を行い、その後、イメージマップの作成を行わせた。考えたことを理由を付けて書き込み、そこに存在する因果関係や利害関係などの関係性に気付かせるようにした。そして、自分の考えをまとめる際、発表整理カードを作成させ、事実と考え、理由付けを意識して書かせた。

#### イ 社会的な思考・判断力の高まり

自分の思考内容について、吟味・検討、修正させる複数回の交流の場を設けることによる、社会的な思考・判断力の高まりを検証した。まずグループ討論を行わせ、自分の考えにない視点からの考え方や、自分と異なる理由を挙げた考え方を参考にさせた。さらに、討論で出た意見や質問を基に自分の考えを吟味・検討させ、考えを補強、修正させる場を設定した。次に学級討論を行わせ、自分と立場を同じくする考えだけでなく、異なる考えについても知り、他者の意見を踏まえた上で、より多くの視点から考えさせるようにした。

### (3) 授業実践1（平成18年11月実施）

#### ア 単元名 第4学年「そのごみ，どうするの」

#### イ 授業実践の概略

佐賀市のごみ問題を取り上げ、3つのごみ減量プランを基に、今後の改善策について討論した。

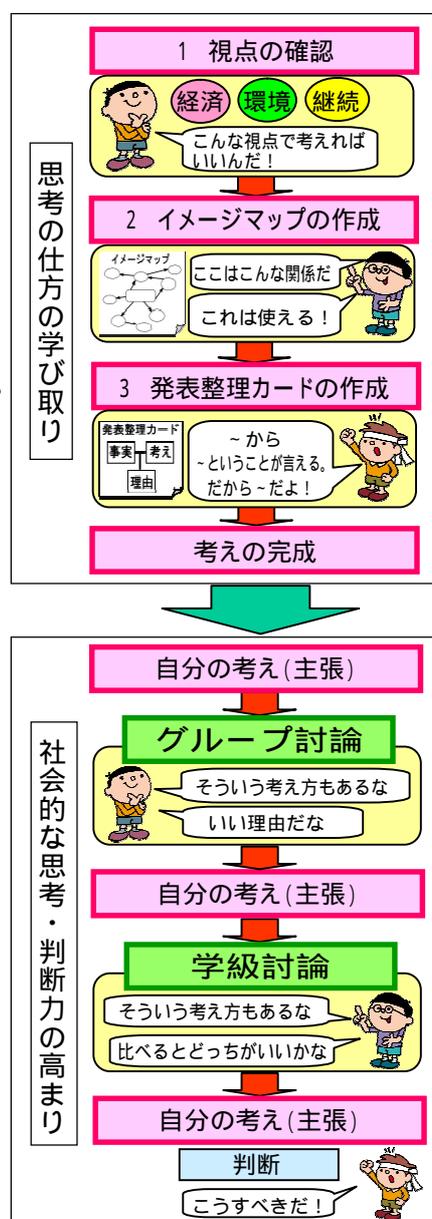


図1 社会的な思考・判断力を高める手立て

ウ 実践の結果と考察

(ア) 思考の仕方の学び取り

a 視点の確認

ごみ減量プランについて、3つの視点（経済性・環境性・継続性）をもって考察し、イメージマップを使って自分の考えを整理しながら、考えをもたせていった。考える視点をもたせることにより、考える糸口が見いだせ、視点に即して様々に関係付けながら、事象に対する考えをもつことができた。

b イメージマップの作成

児童は、自分の考えたことを連鎖的に書き込んでいくため、考えが容易に蓄積され、視覚的にも思考の結果を捉えることができた（図2参照）。そのため、考えも整理しやすかったようである。最初の立場決定をさせるまでに書き込まれた考えの数を調査したところ、考えを全くもてない児童はおらず、事実を基に考えを作らせる手立てとしての効果が見られた。

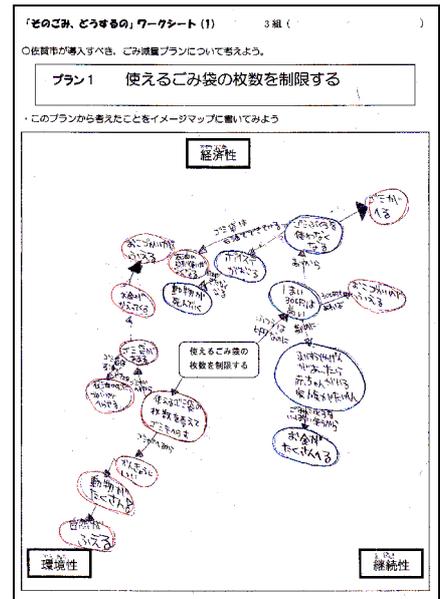


図2 イメージマップ

c 自分の考えの決定

イメージマップの完成後、佐賀市が導入すべきごみ減量プランを1つ選択させ、その理由を挙げさせて1回目の考えを書かせた。理由を明確にしやすいように、イメージマップを使ってそれまでの考えを振り返らせた。自分の考えが視覚的に分かりやすく表記されているので、児童はプランの選択をする際に、立場決定を容易に行うことができた。しかし、イメージマップに挙げた考えを、プラン選択の有効な理由として使うことができず、1回目の考えの理由を明確に表すことができた児童は、35人中22人であった。

d 発表整理カードの作成

選んだプランについて、教師が与えた資料を基に経済性・環境性・継続性などを考慮しながら、自分の考えを補充する個人作業を行わせた。自分の考えをまとめる際、発表整理カードの作成を行わせ、自分の考えと、その基になる事実及び理由を結び付けて書かせていった（図3参照）。このカードを作成することで、後に行った討論の際には、根拠を明確にして自分の考えを的確に伝えることができ、より説得力のある主張を行うことができた。

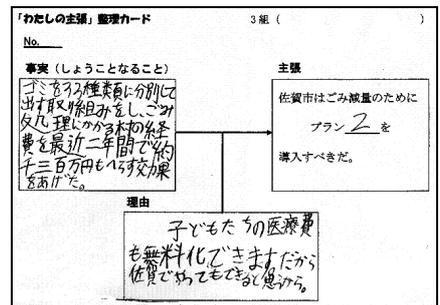


図3 発表整理カード

(イ) 社会的な思考・判断力の高まり

児童の思考の変化を把握しやすいように、図4のようなワークシートを作成し、記入させた。

a グループ討論

児童一人一人が個人の考えを完成させた後、グループ討論を行わせた。グループは同じプランを選択した児童で構成した。この場では、自分の考えにない視点から事象を捉えた友達のことを聞いたり、新たな理由となる情報を入手したりすることで、考えを広げることができていた。グループ討論を行った後、プランについての2回目の考えを書かせた。それ

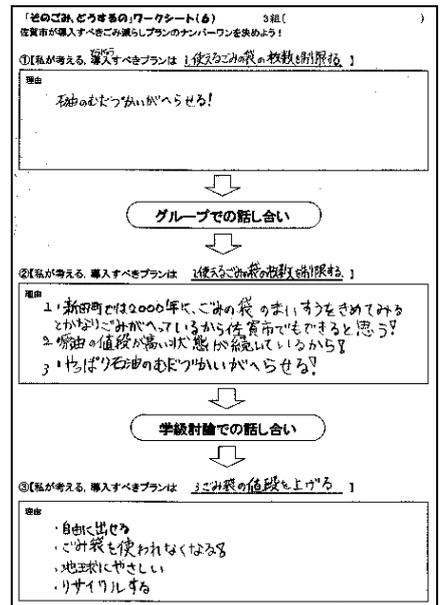


図4 ワークシート

まで環境性の視点しかもてなかった児童が、経済性の視点をもって考えることができるようになるなど、ほとんどの児童が視点を増やしたり、同一視点でも深まりのある考えを書いたりすることができていた（表1参照）。グループ討論の内容を受けて、発表整理カードの補強、修正を行わせた。

表1 視点の数の変化

	視点の数の変化(人)			
	0	1つ	2つ	3つ
立場決定後	13	14	7	1
グループ討論後	0	15	9	11
学級討論後	0	7	6	22

b 学級討論

考える視点や理由付けを常に明確にした討論を行うことで、自分の選んだごみ減量プランについてだけでなく、他のプランのもつメリット、デメリットについても考えを深めることができた。学級討論を受けて、3回目のごみ減量プランについての自分の考えを書かせたところ、35人中12人の児童が自分の考えについて根拠を明確にしてプランを変更した（表2参照）。また、35人中26人の児童が考える視点を増やしていた。視点を増やして考えていくにつれ、多様な考え方が可能になり、考えも深められていったと考えられる。そして、ごみ問題について幾つもの社会的事象を互に関係付けて、多面的に捉えて判断することができるようになった。

表2 児童のプラン選択の変化

	プラン選択の変化(人)		
	プラン1	プラン2	プラン3
立場決定後	14	6	15
グループ討論後	14	6	15
学級討論後	21	5	9

(4) 授業実践2(平成19年1月実施)

ア 単元名 第4学年「県のように、どうなっているの」

イ 授業実践の概略

学習過程前半で佐賀県の地形の様子について学習した後に、「県の北部地域と南部地域では、どちらが住みやすいか」というテーマで討論を行った。

ウ 実践の結果と考察

(ア) 思考の仕方の学び取り

a 視点の確認

佐賀県の北部地域と南部地域ではどちらが住みやすいか、3つの視点(快適性・経済性・安全性)をもって考えさせた。そして、思考の段階を高めるために、視点チェック欄を設け、自分の考えの振り返りを行わせ、どの視点から考えているのかチェックさせるようにした。その結果、児童は初めに考えを作る時点で、視点を意識した考えを行うようになり、多くの視点から多様な考えができるようになった(表3参照)。

表3 視点の数の変化

	視点の数の変化(人)			
	0	1つ	2つ	3つ
立場決定後	0	12	9	12
グループ討論後	0	2	7	24
学級討論後	0	1	3	29

b イメージマップの作成(図5参照)

前回の実践で、イメージマップに挙げた考えを、自分の立場選択の有効な理由として使うことができない児童が見られた。そこで、イメージマップ記入時のきまりを設け、自信のある考えや理由付けは線を太くして強調させ、後で考えを整理しやすいようにさせた。児童は、数ある考えの中から、線の太さを基に考えを整理して考えを作り上げていき、全児童が理由を明確にして考えをもつことができた。また、教師も児童の思考の様子が見取りやすくなり、考えをうまくまとめられない児童に対して、支援が行いやすくなった。このことから、イメージマップの改良が効果的であったと言える。

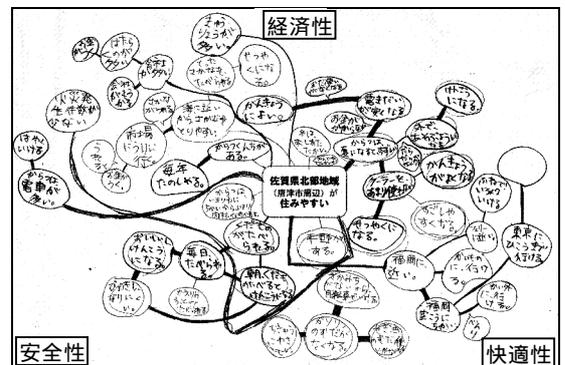


図5 改良したイメージマップ

c 発表整理カードの作成

討論時の発表で、発表整理カードに書いた事実や理由付けをうまくつないで話すことができない児童が多かったので、発表整理カードの改良を行い、話型をカード内に示し、事実、主張、理由付けの関係をつなぎ、順序立てて話せるようにした。その結果、児童は主張を作りやすくなり、討論の時には根拠を明確にした発表ができるようになった。また、主張や事実、理由付けが明確にされるため、聞き手にとっても内容が理解しやすくなった。

(1) 社会的な思考・判断力の高まり

児童の社会的な思考・判断力の高まりを視点の数や理由の数の増加のみでなく、児童一人一人の記述文から、児童の思考の変容を分析した。

a グループ討論

E 児は1回目の考えでは、地域選択の理由として快適性のみを挙げていた。しかし、グループ討論を経ることで、ほかの様々な情報や考えを取り入れ、2回目の考えでは、視点の数を増やして理由付けを行うことができるようになった。また、気候に関して、過ごしやすさを光熱費の節約という経済性と関係付けて考えることができるようになった。このように、グループ討論を通して、事象を別の視点と関係付けて考える思考の深まりが見られた(図6参照)。

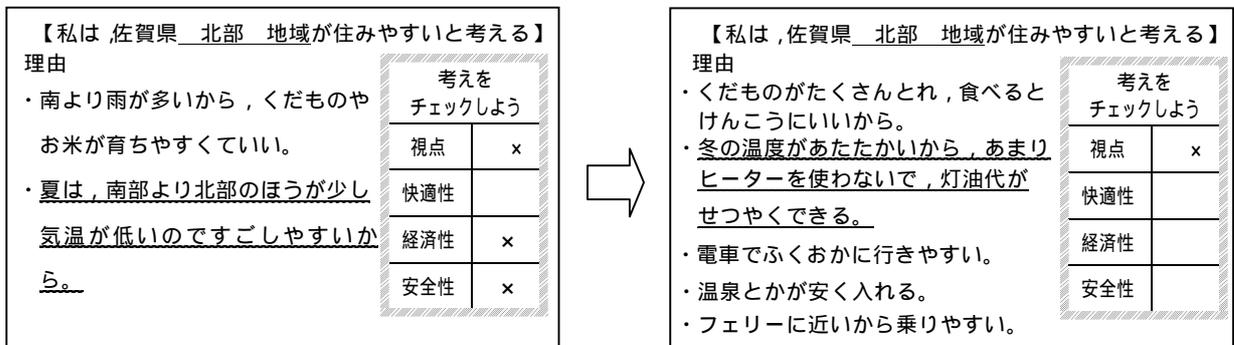


図6 E児の思考の変容

b 学級討論

グループ討論では、児童は、同じ立場での考えの視点を増やし、幅広く事象を捉えて考えることができるようになったが、更に学級討論を行うことで、違う立場の意見も踏まえて考えることができるようになった。

F 児は、初め南部地域を支持していたが、討論内容から両地域を3つの視点を踏まえて比較していた。そして、総合的に捉えて判断し、北部地域の支持に立場を変更した(図7参照)。

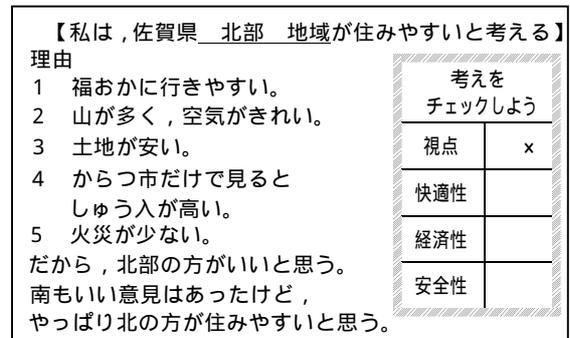


図7 F児の思考の変容

G 児は討論前までは強く南部地域を支持していた。しかし、討論後に視点の振り返りを行ったところ、それまでの南部地域優位を主張する偏った考え方から、両地域を客観的に捉え、比較して考えることができるようになった(図8参照)。

このように、価値の比較を行い立場の決定を行うなど、思考の高まりが見られる児童が多かった。

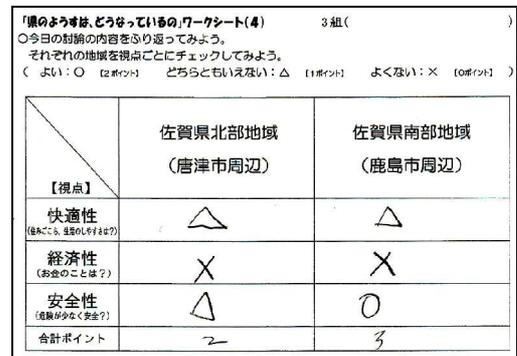


図8 G児の思考の変容

c 2回の討論を通しての児童全体の変容

次頁表4のような評価基準を基に、児童のワークシートの記述内容を評価し、変容を分析した

ものが表5である。立場決定後では、社会的な思考力がA評価の児童は8人であったが、グループ討論や学級討論後は、他者との交流の場を設けたことで、12人、21人と増えた(図9参照)。これは、児童が自分の考えにない視点からの考えや、自分と異なる理由を挙げた考えを参考にしたり、討論で出た意見や質問を基に考えを補強、修正したりして考えることができたからであると考え。特に、学級討論を経ることでA評価が大きく増えたことは、自分と同じ立場の考えだけでなく、異なる考えについても知り、他者の意見を踏まえた上で、より多くの視点から考えることができるようになったことが挙げられる。

また、AやB評価のまま推移している児童も、記述内容を分析すると、考えの視点を広げたり、理由の数を増やしたりと、思考の深まりが見られた。

これらのことから、複数回の交流の場が、児童の社会的な思考力を高める上で効果があることが分かった。

表4 社会的な思考力の評価基準

A	佐賀県の北部地域と南部地域の住みやすさについて、複数の事象を関係付けて考え、主張を作成することができる。
B	佐賀県の北部地域と南部地域の住みやすさについて、資料等を基に、理由を付けて、主張を作成することができる。
C	佐賀県の北部地域と南部地域の住みやすさについて、理由を付けて、主張を作成できていない。

表5 社会的な思考力の評価

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
立場決定後	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	A	B
グループ討論後	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	C	A	B	A	A	A	A	B	A	A
学級討論後	B	B	A	A	A	A	B	A	A	A	C	A	B	B	A	A	A	B	A	B

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
立場決定後	B	B	B	B	B	A	A	B	B	A	A	B	A	欠	欠
グループ討論後	B	A	B	B	B	B	B	B	A	A	A	B	B	欠	欠
学級討論後	B	A	B	A	A	A	A	A	B	A	A	B	A	欠	欠

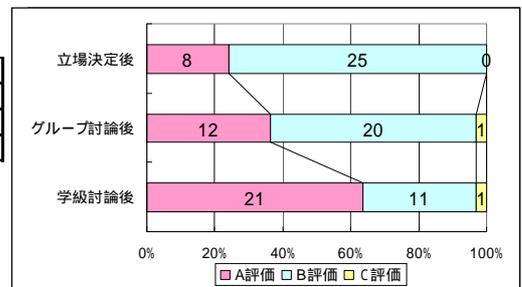


図9 思考力の評価の変容

## 6 研究のまとめと今後の課題

### (1) 研究のまとめ

#### ア 思考の仕方の学び取り

考える糸口となる視点を与え、事象に対する様々な考えを連鎖的にイメージマップに書き込ませることで、児童は考えを作りやすくなった。また、発表整理カードを使わせることで、事実、主張、理由付けを明確にして、考えを整理させることができた。自分の考えをもたせるために、段階的な指導を行っていったことで、児童は根拠に基づいた考えを作り上げることができた。

#### イ 社会的な思考・判断力の高まり

グループ討論を行うことで、それまで考えになかった視点が増加したり、同一視点での考えが深められたりした。また、学級討論を行うことで、違う立場の考えを踏まえて自分の考えを見直すことができたほか、幾つもの社会的事象を互いに関係付け、多面的に捉えて思考・判断することができるようになった。

### (2) 今後の課題

#### ア 社会的な思考・判断力を客観的に見取る評価方法の工夫

#### イ 社会的な思考・判断力を支える基礎的な技能を育成する、単元指導計画の作成

### 《引用文献》

- (1) 辰野 千壽 『考える力の伸ばし方・改訂版』 1991年 図書文化社 p.14
- (2) 北 俊夫, 安野 功 『小学校社会科 基礎・基本と学習指導の実際 - 計画・実践・評価のポイント - 』 2002年 東洋館出版社 p.72